

外国ルーツをもつ高校生の進路選択の事例紹介

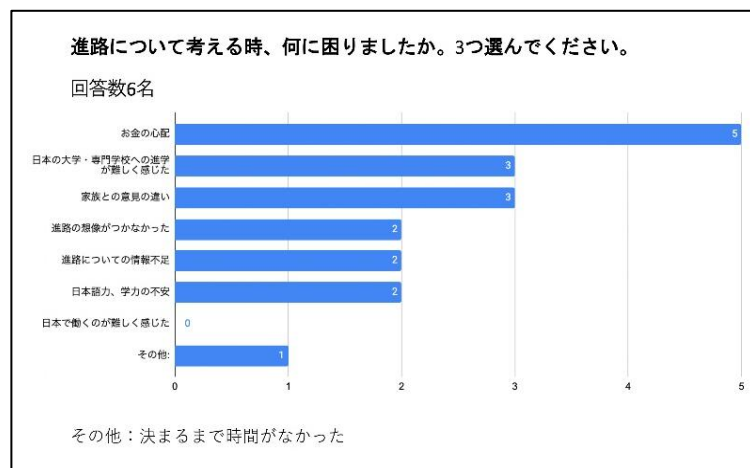
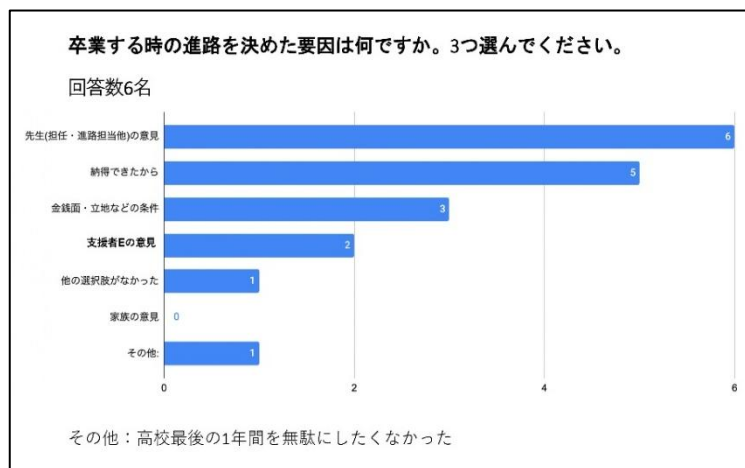
「外国ルーツをもつ若者が自ら進路を選べることを支える官民一体となった仕組み構築事業」では公益財団法人日本国際交流センター（JCIE）休眠預金活用事業の助成を受け、広島県立高等学校に在籍する外国ルーツの生徒にキャリア支援を行ってきました。本資料では、生徒へのアンケートとインタビュー、支援者 E による支援記録をもとに、生徒が卒業時の進路選択に至るまでの経験と支援者 E による支援を中心とした個別の事例、外国ルーツをもつ高校生のキャリア支援におけるポイントを整理します。対象生徒 6 名は全員フィリピンにルーツをもつ生徒です。p.2～3 ではそのうち 4 名（仮名を使用）の事例を紹介します。

【支援者 E について】

支援者 E は、同校の非常勤講師として、2022 年度から外国ルーツをもつ生徒への入り込み指導支援を行っています。また、地域日本語教室のコーディネーターとしても活動しており、生徒だけでなく保護者とも学校外で継続的なつながりをもっています。本事業は、高校での業務時間以外に行いました。支援内容は p.4「外国ルーツをもつ高校生のキャリア支援 一覧表」の通りです。

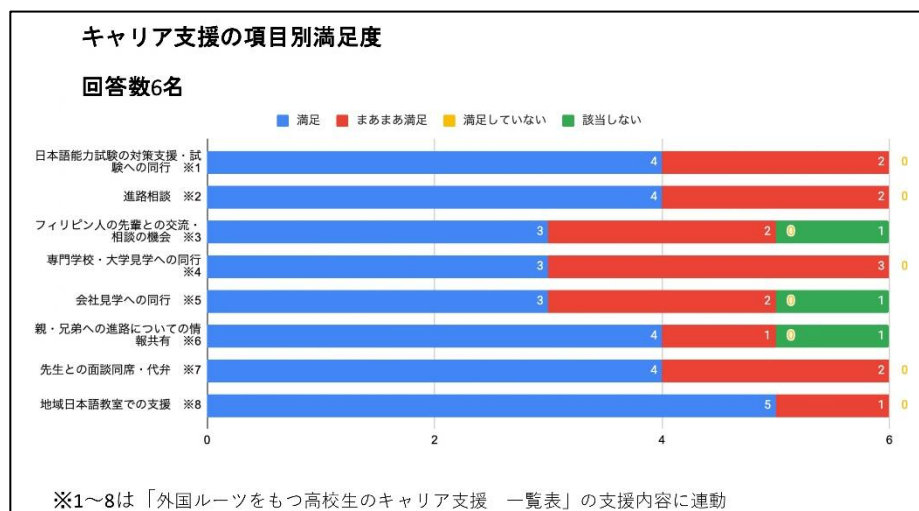
【生徒へのアンケート結果】

支援者 E によるキャリア支援を受けた生徒 6 名へのアンケート結果です。
(2026 年 3 月、Google Form を用いて実施)



★進路について困ったこと … お金（8 割）、進学の難しさ（5 割）、家族との意見の違い（5 割）

★進路の決め手 … 先生の見解（全員）、納得できたから（8 割）、金銭面・立地（5 割）



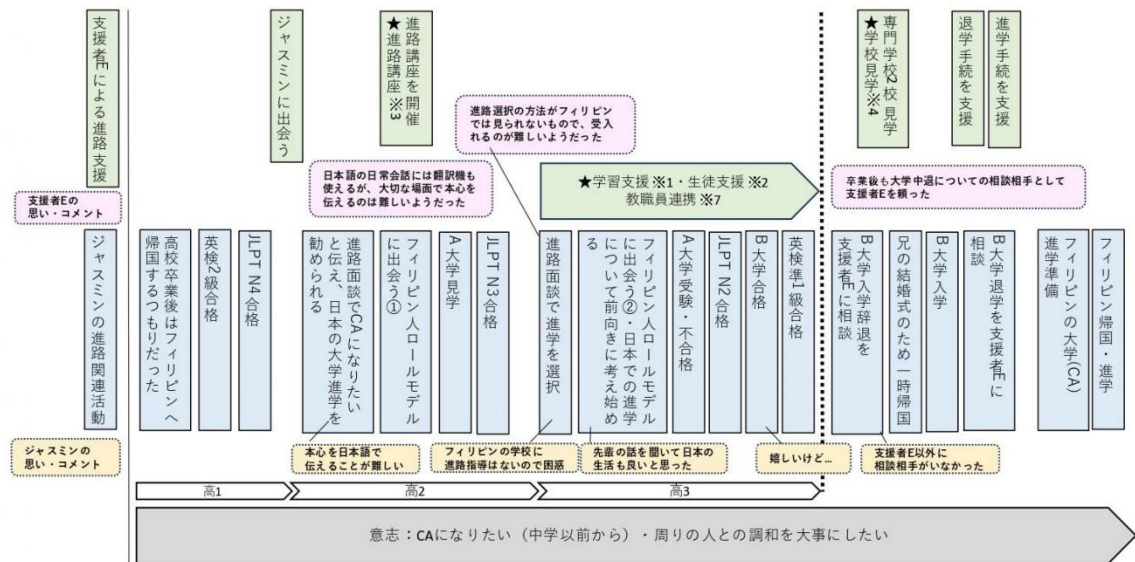
〈制作〉

一般社団法人広島ベイネット 胡子和子

特定非営利活動法人 ETIC. 木村静

特定非営利活動法人ひろしま NPO センター 吉本絢

■事例1 ジャスミン

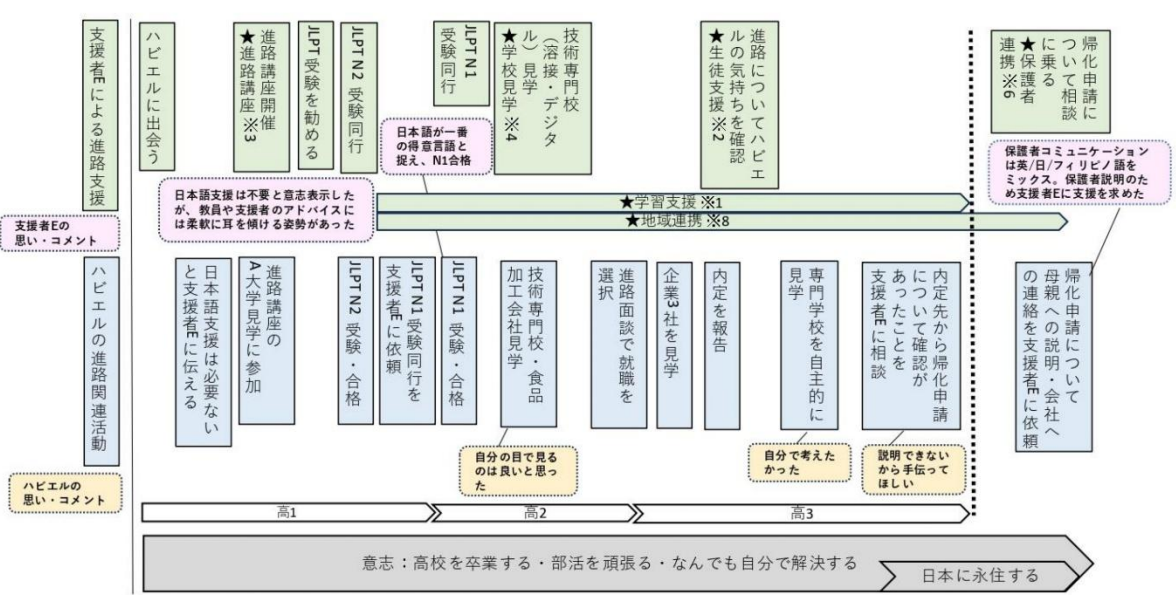


来日後の学年	中学3年生
言語（得意な順）	フィリピン語 英語 日本語（コミュニケーション・読み書き可能）
進路の経緯	公立大学（英語で学位取得可能）自宅から通学 ⇒退学・帰国⇒フィリピンの大学

キャリア支援における気づき

- ・当初は日本国内での進学を希望したが、将来希望する職業のため母国での進学も選択肢に。最終的に希望する職業に有利な進路選択を行った。
- ・保護者は理解を示していたが、日本の進路に関する知識・経験が十分でなく、助言や相談が難しかった。そのため、生徒主体で進路を決める必要があり、支援者に継続的な支援を求めた。

■事例2 ハビエル

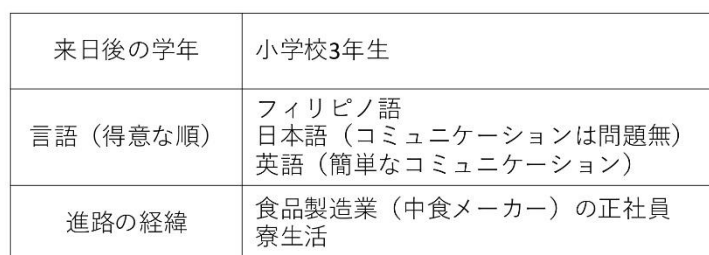


来日後の学年	小学1年生
言語（得意な順）	フィリピン語 日本語 英語（簡単なコミュニケーション可能）
進路の経緯	製造業（機械・輸送用機器）の正社員寮生活

キャリア支援における気づき

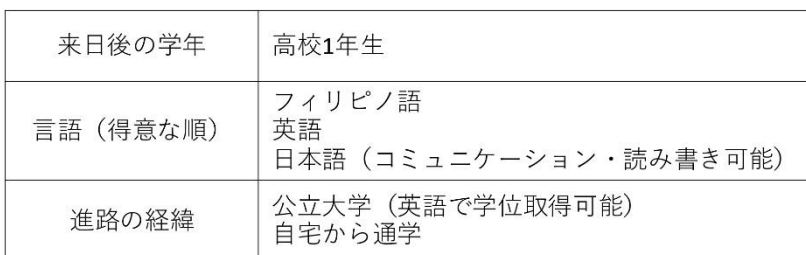
- ・家庭では現地語、日本語、英語併用のコミュニケーションのため、保護者に申請手続きなどの複雑な情報を正確に共有するために言語的支援が必要だった。
- ・JLPT N1への合格は、生徒の日本語能力に対する自己評価を高めるとともに、自己効力感の向上につながった。

■事例 4 マリア



- ・やさしい日本語による学校見学により、進学先が具体的にイメージでき、進路選択を主体的に考え始めた。
- ・日常的に必要な日本語能力はあるが、進路面談では心理的負担が大きく、考えを適切に表現できなかった。
- ・企業概要などの資料の読解、自己PR文作成は困難。やさしい日本語での情報提供や文章作成支援が必要だった。

■事例 4 マリア



- ・日常的なコミュニケーションの日本語能力はあるものの、考えや感情を十分に表現できず、日本語による自己表現への不全感を繰り返し訴えていた。
- ・英語力を生かして進学できる選択肢が見つかったことで、自身の強みを将来につなげる見通しを持てた。その結果、前向きに進路決定に取り組む姿勢が見られた。

【キャリア支援で見たこと】

① 生徒の言語（日本語力、複言語能力） ～「会話が通じる＝本心の対話」ではない～

生徒と日本語でコミュニケーションが図れていても、生徒は本音で話せていないことがあります。

② 保護者との連携 ～「先生→生徒→保護者」のコミュニケーションに注意～

生徒を通じて保護者とコミュニケーションをとれていると思っても、実際は生徒が保護者と十分に会話できていない場合が多く見られます。進路選択の過程では判断することが多く、生徒が一人で悩みを抱えることもあります。

③ 情報・経験の提供 ～日本人生徒と同じ情報では足りない～

日本での就職・進学を自分ごととして考えるだけの日本語力や進路についての基本的な情報をもつ生徒は多くありません。

【マクロな視点・ミクロな視点の両面で構築されたキャリア支援】

① 外国ルーツをもつ高校生に共通する計画的な支援（マクロな視点）

高校におけるキャリア教育は、各学校で組織的・計画的に実施されています（*）。しかし外国ルーツをもつ生徒に対しては、それだけでは十分とは言えません。日本語能力試験（JLPT）対策、外国ルーツをもつ先輩やロールモデルの紹介、やさしい日本語や多言語による学校見学・キャリアガイダンスへの参加支援などを計画的に行うことが求められます。

* 文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023年3月）」

https://www.mext.go.jp/content/20230606-mxt_jidou01-000030273_001.pdf

② 個別的な支援（ミクロな視点）

外国ルーツをもつ高校生が抱える課題やニーズは、一人ひとりの資質、日本語能力、家庭環境などによって大きく異なります。そのため、個々の状況を丁寧に把握し、生徒にとって有効な支援を適切なタイミングで行うことが、生徒の主体性や自己効力感を高め、進路実現に向けたエンパワメントにつながります。

【キャリア支援を有効に行うための土台作り】

高校におけるキャリア支援の強みは、日々の学校生活の中で継続的な「対話」ができることです。生徒との何気ない会話や、教職員・保護者との連携を通して信頼関係を築くことは、生徒が安心して進路について相談できる環境づくりにつながり、キャリア支援を有効に行うための重要な土台となります。

外国ルーツをもつ高校生のキャリア支援 一覧表

支援内容	内容	支援のポイント
1.学習支援	【語学（日本語）】・日本語能力試験 JLPT（レベルの選定、申し込み、教材配付、学習支援、模擬試験、受験当日付添、結果確認とフォロー）・漢字学習（レベルの選定、教材配付、学習支援） 【語学（英語）】・英語学習（英語検定試験のレベルの選定、申し込み、教材配付、学習支援、模擬試験、結果確認とフォロー）、IELTS（申し込み、教材配付、学習支援） 【教科支援】・宿題、試験対策	生徒の語学力に合わせて柔軟に対応することでモチベーションUPにつながる。
2.生徒支援	・定期的なヒアリング（学校生活、家庭状況、進路に対する考えや取組状況） ・不定期なヒアリング（生徒の様子や教職員からの情報をもとに実施）	成績、授業態度、語学学習状況などを具体的に把握しておく。
3.進路講座	・キャリア講習（就職・進学についての情報提供、自己分析、興味のある進路を一緒に調べるなど） ・ロールモデルをゲストスピーカーとして招く（進学・就職）	出身国により仕組みや考え方が大きく異なることを認識する。
4.学校見学	・大学・専門学校等の見学またはオープンキャンパスに参加（通訳付き、在籍外国人学生との交流） ・入試の情報を得る（必要な語学レベル、試験対策、学費、奨学金など） ・キャンパスライフ、卒業後の進路選択情報の取得	学校には事前に生徒の語学力（読み書きの力も詳細に）を伝えておく。
5.会社見学	・会社や工場の見学、採用担当者との連携（採用試験の内容と必要な対策、在留資格の確認、業務内容の確認） ・入社後の生活に関する情報の確認（寮の有無、休暇、給与）	会社には事前に生徒の語学力（読み書きの力も詳細に）を伝えておく。
6.保護者連携	・保護者との連携（連絡方法を確認、生徒の情報共有、質問や相談などがあれば教職員につなげる） ・保護者の言語レベル、生活状況について把握する。 ・日本の教育・就職についての情報提供	生徒と保護者の関係を把握する。保護者の支援も重要。
7.教職員連携	・担任、進路担当者等との継続的な情報共有（成績、態度、進路に関する意志） ・保護者への連絡支援 ・生徒対応についての情報提供 ・DLA「Dialogic Language Assessment（対話型言語アセスメント）」の実施と報告	外国ルーツをもつ生徒の過去の事例は貴重な情報になり得る。
8.地域連携	・学外で外国人支援をする地域支援者等と連携し情報共有 ・行政や民間等の通訳や緊急時の対応窓口の把握	地域にどのような支援があるか最新情報を把握しておく。